

国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学学長選考会議（第43回）議事要録

日 時 平成29年11月16日（木）10:40～12:00
場 所 本部棟2階 中会議室
出席者 平澤議長
相澤委員，岩澤委員，加藤委員，寺野委員，松澤委員，黒田委員，永井委員，
川西委員，東条委員，塚原委員
陪席者 西関監事

議事に先立ち，第42回（平成29年9月21日開催）の議事要録（案）を確認した。

議 事

議長から，次期学長の選考方法について説明があり，意見交換を行った。

1. 次期学長の選考方法について

（1）選考方法全体について

次期学長選考の推薦公示の詳細は，平成31年3月頃までの決定を目指して，今後議論を進めていきたい。

（2）意向調査の方式

「学内意向調査」の位置づけを巡って以下の議論を行った。

国立大学法人化の際、ガバナンス改革の観点から「学長選挙」は行わず、熟議の場としての「学長選考会議」を設け、学長は学長選考会議が決めることとした。その際、ほとんどの大学では「学内意向調査」と呼ぶ投票を実施しその結果を参考にする方式を採用した。本学もそれに倣って過去2回の学長選考時に「学内意向投票」を実施した。

現在の学長選考規則では、「学長選考会議」で候補者を6名以内に絞ることができ、その名簿を意向投票にかけることになっている。票の分散を考えると、候補者数は多くないほうが良いという意見が強い。

「学長選考会議」で候補者を絞るとすれば、どのような知見に基づいて判断すべきか、まだ詰まっていない。前回の会議で確認したように、候補者が多くならない方式を考えることもありうる。

（3）学長像

「学長選考会議」としては、第35回及び第37回の会議で確認したように、次期学長像を既に提示してある。この文書は大変重要で、その見解を基盤として候補者が推薦され、学内の意向が表明されることが望まれる。学長選考の実施までに、JAISTにふさわしい学長像の内容を学内構成員に対して十分浸透させる必要がある。

（4）所信表明の内容と方式

候補者の所信は、文書による資料とプレゼンテーションとが想定されている。学長選考会議

におけるプレゼンテーションと意向投票のためのプレゼンテーションの両方が有りうるが、両者の関係についてはまだ深くは詰めていない。

以上